

2010.6.8 現代日本論演習 (田中重人)

第8講「連関係数とクロス表の解釈」

1. 連関係数の性質
2. SPSS で実習
3. 尺度水準 (復習)
4. 代表値と散布度

【 V の性質】

- ★ 行・列変数が独立のとき $V = 0$
- ★ 関連が強くなると大きくなる
- ★ 最大値は 1

【SPSS で実習】

クロス表のオプションを指定：

「統計」で

「カイ 2 乗」「ファイと Cramer の V」

※「セル」で「度数」(観測／期待) と

「残差」(標準化なし／標準化)を指定することもできる

つぎの変数についてクロス表を解釈：

- 性別 (q1_1) × 性別役割意識 (q35a)
- 年齢 10 歳階級 × 性別役割意識 (q35a)
- 生活水準の変化 (q36) × 満足度 (q37)

V がどれくらいか

→ どこに%の差があるか?

【注意事項】

期待度数の小さいセルがある場合、
連関係数は適切な指標にならない

→ 期待度数 < 5 のセルがないか、
カイ 2 乗値の表の下の警告で確認

【尺度水準と分析法】

名義 × 名義 → クロス表

名義 × 間隔 → 平均値の比較

【代表値と散布度】

★ 中央値 (median) — 四分位偏差 (Q)
(順序尺度以上)

★ 平均値 (mean) — 標準偏差 (SD)
(間隔尺度以上)

(教科書 p. 42–51)

【平均値】

総和をデータ数で割ったもの

【標準偏差】

平均値からの偏差の2乗値の平均が「分散」
分散の平方根が「標準偏差」

★ 平均値と標準偏差はセットで使う

【予告】

来週は中間試験

- 出題範囲は、「クロス表」まで
 - コンピュータで答案を作成、印刷して提出
 - 何でも持ち込み可
- ただし通信と相談は禁止
- 試験後は通常の授業